

# 化学物質等安全データシート

MSDS整理番号: 15000900

 作成年月日: 2007年05月25日  
 改正年月日: 2014年10月31日

## 1. 名称

製品の名前: ステンレスコート P T Yタイプ (主剤)

## 2. 成分及びその含有量

危険有害性成分 (化学名又は一般名)	濃度%	CAS No.	PRTR法 政令No	安衛法別表第9 通知物質番号
エポキシ樹脂	50.0	250681-38-6	非該当	非該当
金属消粉顔料 SUS316-L	50.0		非該当	非該当

## 3. 物理的及び化学的性質

- ・ 外観状態: (20 °C) パテ状
- ・ 色相: 銀色
- ・ PH値:
- ・ 臭気: 無臭
- ・ 沸点: 134 °C
- ・ 蒸気圧: --- Pa (--- °C)
- ・ 密度: 密度(比重) 1.46±0.05 (20°C)
- ・ 引火点: --- °C
- ・ 発火点: 534 °C
- ・ 爆発限界: --- % ~ --- %
- ・ その他: 特に情報を有していない

## 4. 人体に及ぼす作用 (危険有害性情報)

- ・ 刺激性 - なし
- ・ 急性毒性 - なし
- ・ 慢性毒性 - なし
  - 液体を飲み込んでも人体に対しての毒性、反応性は無いが、食用ではないので、飲食を薦めるものではない。
- ・ 生殖毒性 - 情報ナシ
- ・ その他 - 危険性、有害性はなし。
- ・ 日本産業衛生学会の調査では当該物質の発癌性に関する記載なし。

危険有害成分	急性毒性 (LD50 [mg/kg])	慢性毒性 (LC50 [ppm])	感作性	変異原性	催奇形性	生殖毒性
含有	4300 ラット	8000 4h ラット 5320 8h マウス	記載ナシ	菌類の試験で 変異原性なし	動物実験で催奇形性は認められず	情報ナシ

- ・ その他 - 危険性、有害性はなし。
- ・ 日本産業衛生学会の調査では当該物質の発癌性に関する記載なし。

5. 貯蔵又は取扱上の注意

- ・引火性なし
- [取扱い]
  - ・労働安全衛生法等の関連法規に遵守して作業を行うこと。
  - ・容器は密封された材料や物品以外に絶対使用しないこと。
  - ・指定された用途以外に絶対使用しないこと。
- [保管]
  - ・保管は出来るだけ涼しく直射日光の当たらない一定の場所を定め、完全にフタをし、施錠して保管すること。
  - ・貯蔵場所は、等の高温熱源のある所を避け、通風を良くして換気の良い場所へ施錠して貯蔵すること。
  - ・容器は常にフタを閉じ、使用済容器については一定の場所を定め、施錠して保管すること。
  - ・貯蔵は子供の手の届かない所とすること。
- [廃棄]
  - ・環境への放出を避け、廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

6. 流出その他の事故が発生場合の処置

- [緊急時の応急措置]
  - ・眼に入った場合:
    - 可能であればコンタクトを外し、すぐに大量の綺麗な流水で15分以上洗浄すること。
    - 付着物を布で拭き取り、大量の水及び石鹼又は皮膚用洗剤を使用して洗い落とす(溶剤、シナーの使用不可)。
    - 汚れた衣服を再使用しない。
    - 皮膚に刺激を受けた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
  - ・吸入した場合:
    - 気化性成分は含んでいない。
    - 患者が意識を失った場合は、水かぬるま湯で口を濯ぐ程度で、意識的に吐かせない。
    - 気化性成分は含んでいない。
  - ・飲み込んだ場合:
    - 意識的に吐かせない。
  - ・暴露懸念の場合:
    - 気化性成分は含んでいない。
- [火災時の措置]
  - ・初期対応
    - 人火初期の消火は、直ちに現場へ行って必要なら消火器を使用すること。
    - 初期消火が不可能な場合は、速やかに避難すること。
    - 避難の際は、上着を着用し、必要に応じてマスクやハンカチで口鼻を保護すること。
    - 避難経路は、事前に確認しておくこと。
    - 避難後は、速やかに消火隊に連絡すること。
  - ・消化方法
    - 初期消火は、直ちに現場へ行って必要なら消火器を使用すること。
    - 初期消火が不可能な場合は、速やかに避難すること。
    - 避難の際は、上着を着用し、必要に応じてマスクやハンカチで口鼻を保護すること。
    - 避難経路は、事前に確認しておくこと。
    - 避難後は、速やかに消火隊に連絡すること。
- [漏出時の措置]
  - ・消火剤
    - 初期消火は、直ちに現場へ行って必要なら消火器を使用すること。
    - 初期消火が不可能な場合は、速やかに避難すること。
    - 避難の際は、上着を着用し、必要に応じてマスクやハンカチで口鼻を保護すること。
    - 避難経路は、事前に確認しておくこと。
    - 避難後は、速やかに消火隊に連絡すること。
  - ・漏出時の措置
    - 漏出液は、直ちに現場へ行って必要なら消火器を使用すること。
    - 初期消火が不可能な場合は、速やかに避難すること。
    - 避難の際は、上着を着用し、必要に応じてマスクやハンカチで口鼻を保護すること。
    - 避難経路は、事前に確認しておくこと。
    - 避難後は、速やかに消火隊に連絡すること。

7 通知を行う者の氏名、住所、電話番号

会社名称：株式会社イグイン インターナショナル コーポレーション  
 住所：〒104-0032 東京都中央区八丁堀4-11-10  
 担当部署：営業技術部  
 担当者名：井上直樹  
 電話番号：03-3555-0720  
 FAX番号：03-3555-0617

8. 危険性又は有害性の要約

・引火性液体	[ ]	引火性液体および蒸気なし
・皮膚刺激性	[ ]	皮膚刺激なし
・眼刺激性	[ ]	強い眼刺激なし
・発生が殖毒性的	[ ]	発生の疑いなし
・全身毒性/単回復	[ ]	生殖能おそれなし、胎児への悪影響のおそれなし
・全身毒性/単回復	[ ]	麻酔作用、眠気およびめまいのおそれなし
・全身毒性/単回復	[ ]	中枢神経系、神経系、呼吸器、腎臓、肝臓障害のおそれなし
・急性毒性/呼吸器	[ ]	呼吸器への刺激のおそれなし
・急性毒性/呼吸器	[ ]	長期または反復ばく露による臓器の障害のおそれなし
・急性毒性/呼吸器	[ ]	飲み込むと有害のおそれなし
・急性毒性/呼吸器	[ ]	吸入すると有害のおそれなし
・水生生物急性毒性	[ ]	水生生物に非常に強い毒性のおそれなし
・水生生物慢性毒性	[ ]	長期的影響により水生生物に毒性
[安定性]	-	通常状態では安定である。 - 長期間保存した場合は製品が劣化する
[反応性]	-	接触により危険な物質 - 特に情報を有していない
	-	燃焼による有害ガス発生 - CO、低分子エタなどの有害ガスが発生
	-	その他の反応性情報 - 標準条件下では危険な反応はしない

[貯蔵又は取扱上の注意]

- [貯蔵]
- ・保管は出されるだけ涼しく直射日光の当たらない一定の場所を定め、完全にフタをし、施錠し保管する。
  - ・貯蔵場所は、ボイラー等の高温熱源のある所を避け、通風を良くして換気の良い場所へ施錠して貯蔵すること。
  - ・容器は常にフタを上に向けて置き、使用済容器については一定の場所を定め、施錠して集積すること。
  - ・保管、貯蔵は子供の手の届かない所とすること。
- [取扱い]
- ・労働安全衛生法等の関連法規に遵守して作業を行うこと。
  - ・必ず注意する。眼鏡、保護手袋、保護マスク等を着用し、眼や皮膚に皮膚に触れないようにする。
  - ・取扱時は飲食をしないこと。
  - ・取扱後は手を洗うこと。鼻の洗浄等を十分に行い、衣服等に付着した場合（汚れた衣類の再用不可）。
  - ・塗料の付いたウエスや塗料カス、スプレータスは廃棄するまで水に浸しておくこと。
  - ・取扱い作業では漏液、飛散等に注意し、粉塵発生を極力抑え、作業環境を管理濃度以下にするよう努めること。
  - ・容器は密閉式で、破損、腐食、割れ等のない物を使用し、転倒、落下、衝撃を加えたり、引きずったり等、粗暴な取扱をしないこと。
  - ・指定された材料や物品は、絶対に混合しないこと。
  - ・指定された用途以外には絶対に使用しないこと。
- [廃棄]
- ・環境への放出を避け、廃棄する場合は、都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して廃棄すること。

## 9. 安定性及び反応性

- [安定性] - 通常状態では安定である物質  
 [反応性] - 接触により危険なガス発生  
 - 燃焼等による有害ガス発生  
 - その他の反応性情報
- 長期間保存した場合は製品が劣化する
  - 特に情報を有していない
  - CO、低分子モマーなどの有害ガスが発生
  - 標準条件下では危険な反応はしない

## 10. 適用される法令

[労働安全衛生法] : 該当する物質は含んでいない。

[国連番号] : 該当する物質は含んでいない。

[船舶安全法] : 該当する物質は含んでいない。

[航空法] : 該当する物質は含んでいない。

[港則法] : 該当する物質は含んでいない。

[海洋汚染防止法] : 該当する物質は含んでいない。

[P R T R法] : 該当する物質は含んでいない。

## 11. その他参考となる事項

[組成物質の有害性および暴露基準濃度]

物質名	管理濃度	ACGIH(TLV)	経口毒性 LD50	(ARCクラス)

主な引用文献 : 日本塗料工業会編集『原材料物質データベース』  
 : 日本塗料工業会編集『製品安全データシートガイドブック(混合物用)』  
 : オーム社『溶剤ハンドブック』  
 : 危険物防災救急便覧  
 : 国際化学物質安全カード(ICSC)

[注意] ・ このMSDSは、当社の製品を適正にご使用頂くために必要で、注意しなければならぬ事項を簡潔にまとめたもので、通常の取扱を対象としたものです。  
 ・ 記載内容は、現時点で入手した資料、情報、データに基づき作成しておりますが、危険、有害性に關する評価は必ずしも充分なものではありませんので、取扱には充分注意して下さい。  
 ・ このMSDSは、法令の改正、新しい知見により予告なく改正する場合があります。  
 ・ このMSDSは、国の規制を含む(社)日本塗料工業会の基準に基づくものではありませんが、地方自治体の規制情報は含まれておりませんので、各当該自治体の規制に従って下さい。